

穂肥の後は、間断かん水で根の活力を維持！

草刈りの徹底で斑点米カメムシ類の密度低減！

葉もちちは各地で確認されている！早期発見・早期防除！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

◎ 生育概況

7月10日現在の平坦部「はえぬき」の生育は、草丈は平年並み、茎数は平年に比べてやや少なく、葉数及び葉色は平年並みとなっています。

農業総合研究センターの調査によると、出穂期は平年並み～やや早い予想です。

平坦部「はえぬき」の生育（7月10日現在）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	61.5 cm	61.1 cm	101 並み
茎数	617 本/m ²	650 本/m ²	95 やや少ない
葉数	10.6 枚	10.5 枚	0.1 並み
葉色 (SPAD)	42.8	42.8	0.0 並み

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

予想出穂期（7月10日現在、農業総合研究センター調べ）

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期 [※]	平年差
はえぬき	山形市みのりが丘	8月1日	8月3日	-2日
	鶴岡市藤島	7月31日	8月1日	-1日
雪若丸	山形市みのりが丘	8月1日	8月3日	-2日
	鶴岡市藤島	7月31日	8月2日	-2日
つや姫	山形市みのりが丘	8月7日	8月9日	-2日
	鶴岡市藤島	8月8日	8月10日	-2日

※過去7か年（H28～R4）の平均値

◎当面の技術対策

7月6日発表の1か月予報（7月8日～8月7日）では、平年に比べ気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並みの見込みとなっています。

高品質・良食味米を生産するために、高温や気象の変化に十分注意しながら、きめ細かな栽培管理を行いましょう。

（1）水管理の徹底 ～根の活力維持と低温対策～

穂肥施用後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）を行います。その後は間断かん水に移行し、土壌を酸化状態に保ちながら、根の活力を維持します。なお、今後も用水の効率的な利用に努めましよう。

低温に最も敏感な穂孕期（出穂14日前から7日前頃）に気温17℃以下が予想される場合には、15cm以上の深水管理を行い、不稔籾の発生を軽減します。冷害が起きやすい中山間・山

間地域では、幼穂形成期の深水管理を積極的に実施しましょう。山間部等で水温が18℃以下と低い場合は被害を助長するので、水温の上昇を図る対策を行いましょう。

(2) 斑点米カメムシ類対策 ～草刈りを徹底！ 畦畔、法面、農道の雑草を確認！～

斑点米カメムシ類の発生量が急増しています。畦畔、法面、農道、休耕田等で雑草が繁茂しているところでは、出穂2週間前頃までに地域全体で草刈り等の除草対策を徹底し、今後の斑点米カメムシ類の増殖を抑制しましょう。また、主要な斑点米カメムシ類である「アカスジカスミカメ」はノビエやホタルイ等に産卵して増殖するので、本田の残草対策も万全に行います。

(3) 葉いもち対策 ～早期発見・早期防除～

7月上旬の病虫害防除所の調査では、本田で葉いもちの発生が広く確認されています。いもち病の感染に好適な気象条件となる日が多くなっており、降水量も平年並みから多くなる予報であることから、感染拡大が懸念されます。ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底します。

(4) 直播栽培 ～生育量に応じた穂肥～

直播栽培の「はえぬき」の穂肥は、出穂25日前（幼穂形成期）に窒素成分で1.5～2.0kg/10aが基本です。10葉期に㎡当たり茎数が700～750本で葉色が40以上の場合は、施用量を1.0kg/10a以下に減肥します。茎数750本以上で葉色が42以上の場合は追肥しません。

つや姫 の生育と技術対策

7月10日現在の生育は、平年と比較して、草丈はやや長く、茎数は並み、葉数は並み、葉色はやや淡くなっています。なお、出穂期はやや早まる予想で、既に穂肥施用の適期に入っています。

直ちに生育診断を行い、品質・食味を優先した穂肥を行います。なお、窒素成分は1.0～1.5kg/10aとし、葉色が濃い場合は穂肥を控えます。

「つや姫」の生育（7月10日現在）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	61.7 cm	59.4 cm	104 やや長い
茎数	563 本/㎡	552 本/㎡	102 並み
葉数	10.4 枚	10.4 枚	0.0 並み
葉色 (SPAD)	39.5	40.6	-1.1 やや淡い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう！

農薬危害防止運動実施中